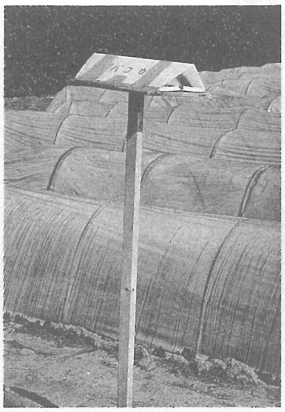
普及センターだより

"フェロモントラップ"あれは何だ?

最近畑の脇に写真1の様な見慣れない装置を見かけませんか。これは農産物の害虫防除の新兵器、「性フェロモントラップ」です。といってもこの装置から農薬が放出されるわけではありません。



"性フェロモンとは"

フェロモンとは「同じ種類の生物に微量で作用し、強い生理作用を起こさせる物質」という意味です。例えば、蟻が餌から巣に向かって一列に進むのも、巣を刺激された蜂が急に集団で襲いかかるのもフェロモンが行動を仲立ちしているのです。

「性フェロモン」は雄と雌が巡り会うための仲介をする物質を言い、性フェロモンは虫の種類によってそれぞれ異なります。たとえばヨトウムシの性フェロモンはヨトウムシしか感じることはできません。また、人畜無害です。

"フェロモントラップで害虫発生を予測

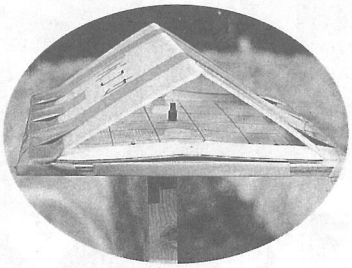


写真2の装置を性フェロモントラップと呼び、装置の中は、人工的に合成した性フェロモンが粘着板に取りつけてあります。雌を求めて野外をさまよっている雄はこの人工的に作った雌の香りに引き寄せられるうち誤って粘着板に捕まってしまうのです。

このようにして捕らえられた虫の数を定期的に調査することにより、その虫の発生時期、発生量を予測することができます。(発生予察と言う)。農家の皆さんはこの予察情報をもとに無駄のない効率的な害虫防除を行うことができるのです。

山武地域では主にねぎ、トマトの害虫について性フェロモン剤の利用による発生予察を実施しています。

"装置をのぞいてみよう"

性フェロモン剤は発生予察の他にも害虫の捕獲や交尾行動を妨害し、虫の発生を抑制する利用方法があり、実用化されています。皆さんもフェロモントラップを見つけたら中を覗いてみてください(害虫が捕らえられているのが見られるかもしれません)。でも、決していたずらしないでくださいね。畑の隅にあるフェロモントラップは害虫の発生を知る大切な情報源なのです。

(野菜科・福田)

※問い合せは、普及センター松尾駐在(86)4121~2)へ。

文芸

俳句

春眠の旅の果てまで続きけり　福田　晴一

春眠をむさぼる赤子ほゝえめり　小林　順子

紙風船むかし富山の薬売り　今関　茂生

風船の空気の重み撞きにけり　戸村　静華

春眠や目覚めし後の濃き緑茶　福田　幸子

老ひたれど手練の手技畦を塗る　若梅あやめ

崖不動太古の岩につゝじ燃ゆ　土屋　栗水

つばくろや駅舎の中を矢の如く　藤代　ゆう

春宵を酔ふて居るなり一人酒　鈴木　草庵

風見えず風車ゆっくり暮るゝ里　玉虫たけし

老鶯や出稼ぎ親人帰る頃　選者　山口　一秋

短歌

砕氷船の観光客を見上げゐつ流氷の上なる胡麻斑海豹

吉岡　信子

抱かれて乳を飲みゐる嬰児は透けるばかりの指を撓はす

秋葉　悦子

路地ゆくに季節はづれの風鈴があるかなしかの音たてゐたり　永藤　滋

代掻きの終りし田の面は水たたへ苗植うる前をいっとき静か　押尾　輝子

電車より苺ハウスの灯の見へて灯籠流しをふとも思へり　西山満里子

玄関前にすがしく香るフリージア黄花赤花咲き盛りゐつ　池田　春江

昨日着し喪服たたみてゐし義姉が聞こへぬほどの嗚咽もらせり　八角　三枝

一日吹きし風に落ちたる藺の花うすきみどりの畳敷くがに　鈴木　やす

家森に馴染みし槻の切株は吾が腰をかけなほ余りあり　宇井　ちい

軒先に思ひもかけず鶯のさへづりききて姿探すも　向後　房

成溪学舎で学びし友のみまかりぬ百一歳の天寿終りて　土屋　栗水

二千四百年を経てふたたびを訪なふと語りて幼と彗星仰ぐ　選者　斎藤つね子